

## 日中覚醒時に高頻度のブラキシズムを行っていた症例

## A case of frequent awake bruxism during daytime

○中島利徳<sup>1</sup>, 山口泰彦<sup>2</sup>○Toshinori Nakajima<sup>1</sup>, Taihiko Yamaguchi<sup>2</sup><sup>1</sup>北海道大学病院 クラウン・ブリッジ歯科<sup>2</sup>北海道大学大学院歯学研究院 冠橋義歯補綴学教室<sup>1</sup>Department of Crown and Bridge Prosthodontics, Hokkaido University Hospital<sup>2</sup>Department of Crown and Bridge Prosthodontics, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University

ブラキシズムは口腔の機能を健全に保つ上で大きな障害になることが問題視されている。これまで、睡眠時ブラキシズムにフォーカスが当てられ、多くの研究や症例報告が行われてきた。しかし今回、睡眠時のブラキシズム数は少ないが、覚醒時に高頻度にブラキシズムを行っていた症例を経験したので報告する。

患者は 50 代女性。両側顎関節症（間欠ロック）および睡眠時ブラキシズムと診断し、8 年前より当院にて加療してきた。当初は起床時に間欠ロックや咬筋や歯の痛みを自覚することがあったため、夜間スプリントを適用したところ、起床時のこれらの症状は改善を認めた。スプリントを装着しないと起床後の咬筋のだるさが生じるため、その後もスプリントを継続し定期観察していた。しかし最近になり、口腔内の清掃状態やスプリントの使用状態は特に変化していないにもかかわらず、歯周病の悪化が認められた。そこで、ブラキシズムの悪化を疑い、ウェアラブル筋電計を用いて、睡眠時及び覚醒時の咬筋筋活動を測定した。

睡眠時はスプリント非装着 2 晩、装着 2 晩、測定 1 日目は、睡眠時測定後に、日中も継続して測定を行った。その結果、睡眠時はスプリント非装着の 2 晩のエピソード数は平均で 3.9/h、スプリント装着の 2 晩のエピソード数は平均で 3.3/h であり、何れも少ない値であった。一方、食事中を除く覚醒全体では 40.5/h であり、仕事や人との会話時に限ると 51.8/h であり、かなり高頻度の回数であった。

本症例の筋電図検査の経験から、睡眠時と覚醒時のブラキシズムが関連なく起こり得ることが示され、睡眠時ではなく覚醒時ブラキシズムが為害性を持つ例も少なからず存在する可能性が示唆された。また、ライフステージによってブラキシズムの発現様相が変化する可能性も考えられた。